

「星の花が降る頃に」テスト対策練習問題と過去問まとめ①

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「星の花が降る頃に」はいつの季節の話か、次の中から選び、○で囲みなさい。

ア：早春

イ：真夏

ウ：初秋

エ：晩冬

問2 去年の秋のことが書かれている部分の、最後の5文字を本文より抜き出して答えなさい。

問3 「銀木犀」は、この話の中で夏実と「私」の間の何を象徴しているか。次の中からもっとも正しいものを選び、○で囲みなさい。

ア：絆

イ：擦れ違い

ウ：誤解

エ：未来

問4 「高じる」の使い方として正しい文を次の中から選び、○で囲みなさい。

ア：彼の興味が高じて、ついにプロの写真家になった。

イ：彼女はテストの点数が高じて、クラスの代表に選ばれた。

ウ：お母さんの料理が高じて、家族みんなが風邪を引いてしまった。

エ：雨が高じて、今日は外に出かけられない。



問5 「あたかも」の使い方として正しい文を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：彼女はあたかも風邪を引いているので、学校を休んだ。
- イ：昨日はあたかも宿題が終わらないから、遊べなかった。
- ウ：彼はあたかも映画の主人公のように振る舞っていた。
- エ：あたかも夏休みが始まるから、みんなワクワクしている。

問6 「小学生のころからわからないままだ。」とあるが、なにがわからないのか。もっとも正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：戸部君が友達とすぐ本気のけんかをする事
- イ：「あたかも」という言葉を使って文を作ること
- ウ：戸部君が自分からむ理由
- エ：戸部君が自分に宿題を聞いてくること

問7 夏実と別々に帰るようになってしまった理由だと「私」が考えているものを2つ、本文より抜き出して答えなさい。

問8 銀木犀の花の入ったビニール袋をお守りのようにしている理由として正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：花が星の形をしているから
- イ：よい香りがするから
- ウ：銀木犀が好きだから
- エ：夏実との思い出だから



問9 「小さなビニール袋をポケットの上からそっとなでた」ときの「私」の気持ちとして正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：これで何をつくろうかな。
- イ：香りがなくなってしまうって残念だ。
- ウ：夏実と仲直りができますように。
- エ：去年の秋は、楽しかったな。

問10 夏実の姿を見て、「私」が一気に緊張したことがわかる一文を抜き出し、はじめの5字を答えなさい。

問11 「どきどき鳴る胸をんだめるように…足を踏み出した」とあるが、このときの「私」の状態としてもっとも正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：嫌々している
- イ：怖がっている
- ウ：勇気を出している
- エ：楽しみにしている

問12 「音のないこま送りの映像」「変に長く感じられた」という表現から汲み取れる「私」の気持ちとして正しいものを次の中から全て選び、○で囲みなさい。

- ア：信じられない気持ち
- イ：退屈に思う気持ち
- ウ：諦める気持ち
- エ：深い衝撃

問13 夏実の様子にショックを受けていた「私」が我にかえったことがわかる表現を、本文より13文字で抜き出して答えなさい。



問14 「きまりが悪い」を正しく使っている文を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：明日の天気がきまりが悪いので、遠足は中止になった。
- イ：彼の成績がきまりが悪いので、もう少し頑張る必要がある。
- ウ：きまりが悪い髪型をしているので、美容院に行った。
- エ：みんなの前で転んでしまって、きまりが悪かった。

問15 「真夏日」とあるが、その具体的な描写を26文字で本文から抜き出し、最初の5文字を答えなさい。

問16 「運動部のみんなはサバンナの動物みたいで入れかわり立ち替わり水を飲みにやって来る」とあるが、ここで使われている表現技法を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：倒置法
- イ：擬人法
- ウ：直喩
- エ：隠喩

問17 「水飲み場の近くに座って戸部君を探した」とあるが、このときの「私」の気持ちとして正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：焦り
- イ：怒り
- ウ：疑問
- エ：落胆



問18 「みんなの前で何を言い出すか知れたものじゃない」とあるが、「私」がそう考えたのは、戸部君のどんなところのせい。「～ところ」と続くように、本文から抜き出して10字で答えなさい。

問19 「八つ当たりとわかってても」とあるが、どういうところが八つ当たりなのか、もっとも正しいものを次の中から選び、○で囲みなさい。

ア:夏実との仲がこじれたのが戸部君のせいだと感じる事

イ:こちらが探しているのに、姿を見せないことを憎らしく感じる事

ウ:いつも「私」にからんでくることをうっとうしく思っている事

エ:夏実との擦れ違いに関係のない戸部君を憎らしく感じる事



「星の花が降る頃に」テスト対策練習問題と 過去問まとめ①（解答）

問1 ウ

【解説】「9月」という言葉から、秋だということがわかる。「真夏日」から夏と勘違いしないように注意しよう。

問2 て笑った。

【解説】句読点も1文字として数えることに注意しよう。

問3 ア

【解説】銀木犀の木の下は、「私」と夏実にとって二人だけの秘密基地であり、二人で過ごした時間（絆）の象徴である。

問4 ア

【解説】「高じて」は、物事が進んでより強い状態になることや、発展することを表す言葉である。

問5 ウ

【解説】「あたかも」は「まるで」「ちょうど~のように」という意味で、例えの表現として使う。

問6 ウ

問7 ・小さな擦れ違い

・誤解

※順不同



問 8 エ

問 9 ウ

【解説】「お守りみたいな」という表現から、夏実と仲直りができることを祈りながら、この銀木犀の花が入ったビニール袋をなでていることがわかる。

問 10 そのとたん

【解説】抜き出す一文は「そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。」

問 11 ウ

【解説】「どきどき鳴る胸をなだめる」ということから、緊張していること、「一つ息を吸ってはくと」ということから、勇気をだして、足を踏み出す決意をしている様子がわかる。

問 12 ア・エ

【解説】ずっと親友だと思っていた夏実に無視をされたことに深い衝撃を受け、なにが起こったのか、何か間違いではないかとにわかに信じることができない気持ちがくみ取れる。

問 13 騒々しさがやっと耳に戻った

【解説】夏実の様子にショックを受けた「私」は、「こま送りの映像のように」感じ、時間が「変に長く」感じられていた。そこから、はっと我にかえったことから、「騒々しさがやっと耳に戻った」のである。

問 14 エ

【解説】「きまりが悪い」は、「恥ずかしい」や「ばつが悪い」という意味で、人前で恥ずかしい思いや気まずい思いをしたときに使う。



問 | 5 毛穴という

【解説】抜き出す部分は「毛穴という毛穴から魂がぬるぬると溶け出してしま
いそう」

問 | 6 イ

【解説】「~のようだ」「~みたい」という比喻表現の言葉が使われている
ため、直喩である。

問 | 7 ア

【解説】「私」は、夏実とのやりとりを戸部君に見られ、それをみんなの前で
言われるのではないかと気が気ではなく、焦っていた。

問 | 8 繊細さのかけらもない(ところ)

問 | 9 エ

